

住民主体で福祉のまちづくりを推進する情報交流紙です

よつ葉のクローバー KIKUSUI

No.24 2009.8.30



福まち通信

菊水福祉のまち推進センター運営委員会
札幌市白石区菊水6条4丁目3-10
電話 011-887-7006 FAX011-887-7006
URL <http://www.kikusui-net.jp>



第34回ふるさとまつり開催

白石区役所の駐車場と白石区民センター(札幌市白石区南郷通3丁目北1)で平成21年7月18日(土)・20日(月)の両日、「白石区ふるさとまつり」が開催されました。

これは、白石区最大の区民の夏祭りであり、白石区ふるさと会が主催し、白石区子ども会連絡協議会と白石区民センター運営委員会、白石区料飲店組合連合会、白石区体育館・白石温水プール、白石区が共催したものです。

34回目を迎えた今年は「伝える～感動! しろいし再発見」をテーマに白石区の歴史、今、そして未来への思いを伝える数多くのプログラムが組まれました。

30店以上の出店が立ち並んだ会場は、約3万人の区民でにぎわいました。



平成21年度第1回福まち研修会開催

『突然の事態に備えて～応急手当と救命措置の仕方について』

平成21年8月20日午前9時から、菊水地区会館2階ホールにおいて今年度第1回の福まち研修会が開かれました。

今回のテーマは、標記のような救急法についての実技の講習で、札幌市防災協会の専門指導員の指導の元に行われました。各連合町内会から受講を予約された5～6名の方々が出席し、6つのグループに分かれて講習は始まりました。



指導員の話身を乗り出して聞く受講者

講習は3部に分かれていて、第1部は止血と喉が詰まったときの手当り方、第2部が人工呼吸と心臓マッサージ方、最後がAED(自動体外式除細動器)の使用方でした。

第1部では、傷病者に適した体位にするための体位転換を相手に痛みや不快感を与えずに行う方法や、喉に異物が詰まったときに効果的に対応する方法を学習しました。少人数による交互の実体験を通じて、皆さん納得されていました。

第2部は人形を使っての実習を行いました。大きな声で「大丈夫ですか」と相手の反応状態を確認し、周囲の人に手助けを求め「あなたは救急車を呼んでください」「あなたはAEDを持ってきてください」などと周囲に協力を求めることから始まります。呼吸の確認をした後、気道の確保をしてから人工呼吸が開始されます。その後、胸を圧迫して行う心臓マッサージが開始されます。30回思い切り圧迫する参加者の額から汗が噴出しています。

最後はAEDの使い方を勉強しました。



いとも易々と体位変換をする指導員



AEDの本体



大きく口を開けて



AEDの電極パッドを貼る位置を説明する



真剣に胸を押し続ける

AED の電源を入れて、指定された位置に電極パッドを貼り付けた後はすべて AED の指示に従い、最後にショックボタンを押します。

参加者の皆さんは臨場感そのままの体験をし、緊張の 3 時間を過ごしました。最後に右のような講習終了証を受取り解散しました。受講者の方に感想をお聴きすると、「実際にそのときになったら落ち着いてできるか自信はありませんが、この講習の成果としてそれなりの行動は取れると思います」と、力強く応えてくれました。



菊水地域の夏祭り

8月2日(日)午後1時から白石公園で菊水上町連合町内会主催による夏まつり盆踊り大会が開催されました。

前日から会場の設営をし、泊りがけで警備をしてきた役員の皆さんのご苦勞にこたえられず、祭りの当日は生憎の曇天でした。終いには小雨も降り出す始末で楽しみにしていた盆踊りは中止になりましたが、子どもゲーム大会やカラオケ大会は予定通りに行われました。



夜になると天候も回復し、お楽しみ抽選大会では、特賞の 19 インチ薄型地上デジタルテレビの抽選で大ヒーバーしました。

夜になると天候も回復し、お楽しみ抽選大会では、特賞の 19 インチ薄型地上デジタルテレビの抽選で大ヒーバーしました。



お祭には、近くの福祉施設の利用者さんたちも参加し大いに楽しみました。

菊水上町地区にある「こまちの郷菊水(特別養護老人ホーム)」の高齢者の皆さん 10 数名と介助員の方々、それに「ハートの家五番館(認知症対応グループホーム)」の利用者さ



ん数名と介護者の皆さんたちがこのお祭に参加しました。

日頃、楽しみが少ない施設利用者の皆さんたちは、施設から出て地域の人たちと一緒に祭りに参加できたことに本当に嬉しそうでした。小雨が降ったときには、急遽テントを用意してもらいゆっくりと祭りを堪能することができました。



夏祭りと障がい者の参加

8月8日(土)菊水のぎく公園で午後3時から南連合町内会主催の夏祭りが行われました。

このイベントには、やよい児童会館、幌東児童会、少年野球ベアーズ、それに近くの知的障害者通所

施設の菊水ワークセンターが協賛参加していました。

久しぶりの好天に恵まれ、過去最高の人出を記録しました。出店には子どもたちが群がり、輪投げ、玉入れ、的当て、型抜きなどを楽しんでいます。売店には親の手を引いて子どもが集まります。菊水ワークセンターの手作りのクッキーやマドレーヌもなかなかの売れ行きを見せています。用意されたイベントのジャンケン大会、子どもラムネ早飲み競走などが終わり、大人のビール早飲み競走が始まる頃からお祭は最高調を迎えます。



薄暮の頃、焼き鳥、焼そばなどの店には長蛇の列ができ、ビールやお酒は飛ぶように売れていきます。カラオケ大会が始まると祭りの興奮はピークを迎えます。大人顔負けの子どもの参加と盛り上がりが見られました。



祭りの最後はビンゴ大会です。特賞の自

転車は子どもが獲得しました。総体として子ども本位のお祭でした。



このお祭に一組の障がい児童が参加していました

近くにお住まいのNさんご一家です。二人のお嬢さんは幌東小学校の一年生と二年生で、写真のような車椅子の状態ですが普通学級に通学しています。Nさんのご了解を戴いて写真の搭載とこの記事を書いています。お二人は生後間もなく脊髄性進行性筋萎縮症に罹り、歩くことも体位を保つことも困難になり、現在でも睡眠時は人工呼吸器が放せない状態です。

小学校に入学するとき、養護学校と普通の小学校との選択に迷いましたが、子どもの知的水準の維持

向上を選択しました。通学には民間のボランティア団体からの援助を戴いていますし、小学校にも色々のご配慮を戴いていると話してくれました。ご覧のように、ご夫婦とも大変な状況にありながら、非常に爽やかな雰囲気をもっておられますし、ご家族がお祭を心から楽しんでいる様子がうかがえました。



編集後記 Nさんご一家の幸せを願うと同時に、私たちに何が出来るかを考えざるを得ません。関係機関や学校と地域とが協力してお手伝いの方途を考えることは必要ですが、当面、通学する二人に「いってらっしゃい」「おかえり」と励ましの声掛けをすることから始めてみませんか。
(枝元編集員)